



であいのやおや



見たことないものって、とっつきづらい。

でも、「知らない」との新しい出会いってやっぱりどこか「ワクワク」する。

本提案では、珍しい野菜の販売方法を考える。

知らない野菜と出会って、種から収穫、料理になって私たちの口に入るまでをたどっていく。

それは、美術館のような、博物館のような、レストランのような

ここは、未知の野菜と出会い、仲良くなるための心地よい「であいのやおや」

● 提案背景

情報化により私たちの目にはパーソナライズされたあらゆる情報が入り、
いつでもどこにいても「欲しい」から「手に入れる」までの流れが素早く
可能になった。

= 購買行為における静的な心地よさ

一方でこのような弊害も…

- 1 家に届いた後、商品サービスに十分に納得できないまま諦めてしまう。
- 2 外に出て買い物をするからこそ感じられる季節感や、偶然的な商品との物語性を感じにくい。



日常のふとしたシーンで、まだ知らない新たな価値観、吟味する過程で生まれるワクワク感や物語性に出会える場を提供できないだろうか？

= 購買行為における静的な心地よさ

ビジョン

知る余地のなかった野菜の新たな魅力に触れることで、日々の食卓をより豊かなものとし、購買に対する納得感を高めてもらう。



● アイデア

「であいのやおや ● ● ●」



青パパイヤや紅葉苺など、季節によって移り変わる「食べたことないけどなんか気になる…」という野菜たちだけをお試し / 販売する八百屋。
知らなかった野菜との出会いによる食卓の豊かさを提供する新しい購買体験。

春	夏	秋	冬
	ピーナッツかぼちゃ		
	つるむらさき		ロマネスコ
うど		ゆり根	
		コブリーヌ	コールラビ
	ブラックシャインマスカット		トレビス
ワセコモチ		もってのほか	

↑ 取り扱う野菜の例



① 来店

- ・味見付き入場券を購入し、入店する

Story Bord 01-06

ペルソナ



- ・32歳地元住民
- ・リモートワーク会社員
- ・副業でライターをしている
- ・趣味：旅行、読書、美術館巡り
- ・料理を楽しみつつ日々レパートリーを増やそうと模索中



② 展示を見る

- ・展示を通して産地や生育の様子など、野菜のルーツをたどる



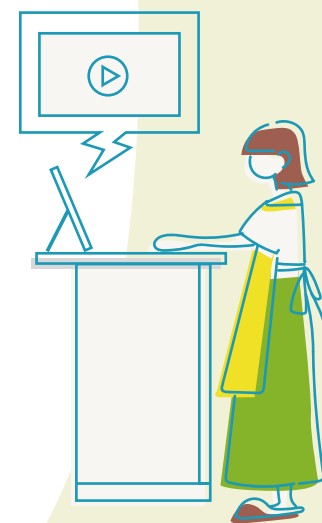
③ 味見する

- ・気になった何個かの野菜料理を注文して味見
- ・パネルに公開されたレシピを見たり、食べた感想を書き込んだりする



⑥ 食事を楽しむ

- ・いつもの食卓に変化が加わり、新たな発見の輪が広がっていく



⑤ 調理する

- ・家に帰って台所へ
- ・購入した野菜を使い、公式 WEB サイトでレシピ動画を見ながら調理する



④ 購入する

- ・併設されたショップで展示されている野菜を購入
- ・専属のソムリエが料理の相談に答えてくれる

店舗設計

～種から料理になって私たちの口に入るまで～

店舗とギャラリーの大きな違いとは何だろう。「であいのやおや」は八百屋と美術館・博物館、レストランを混ぜ合わせたような店舗設計とした。商店街の延長線として食べ歩きができるようになっている。

敷地 ー深川資料館通り商店街ー



清澄白河駅から東京都現代美術館の通り道に位置する。美術館や資料館が近く、商店街では食べ歩きの文化もある。

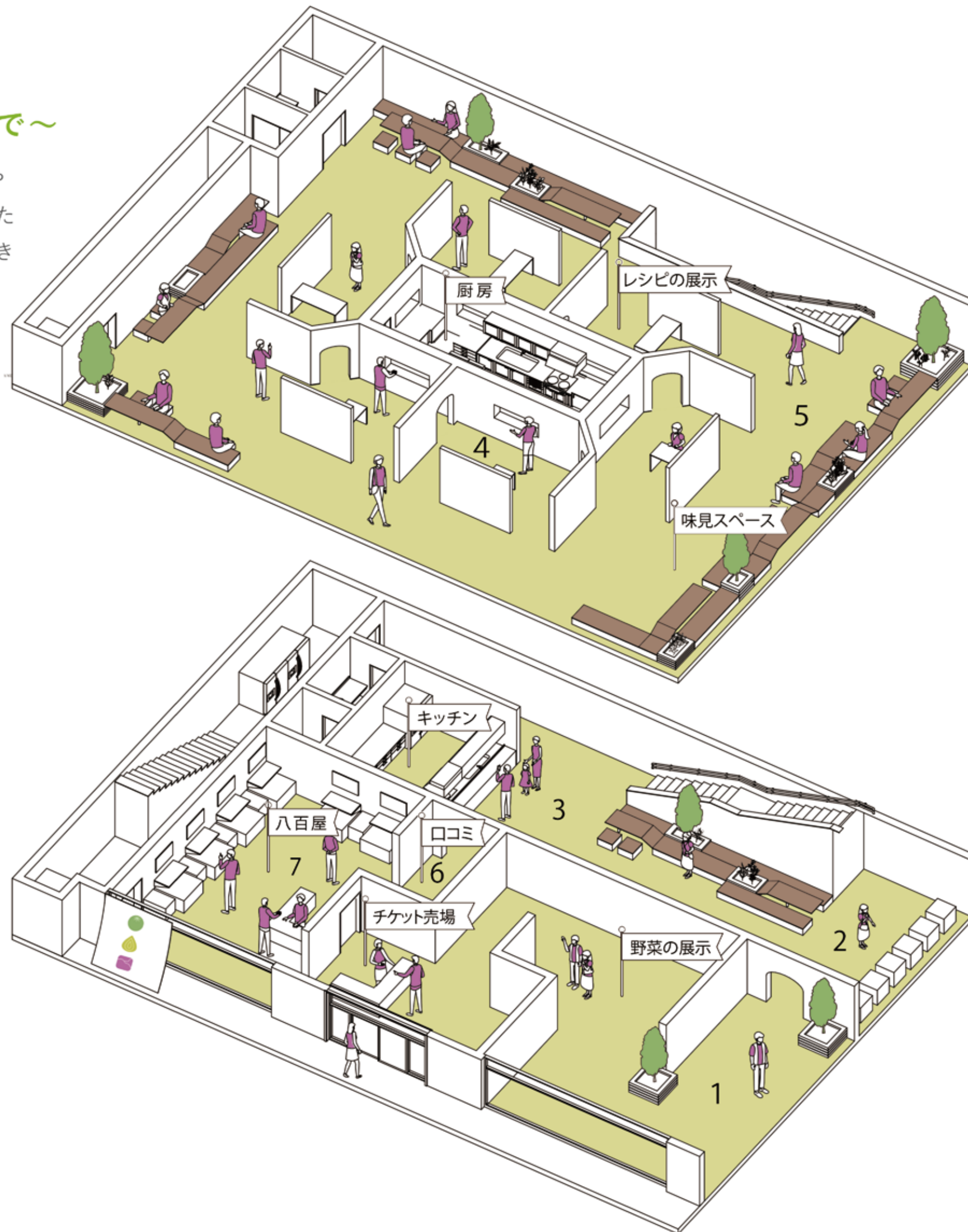
ターゲット



- ・ 30代女性
- ・ 地元住み
- ・ 毎日料理をする習慣がある



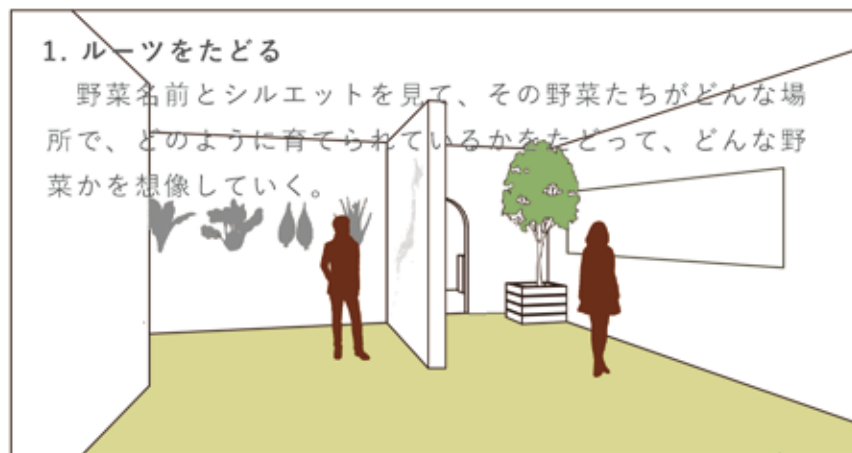
- ・ 20代外国人観光客
- ・ 友人と近隣のカフェに遊びに来た
- ・ 日本の珍しい食材を食べてみたい



● 店舗内部空間

1. ルーツをたどる

野菜名前とシルエットを見て、その野菜たちがどんな場所で、どのように育てられているかをたどって、どんな野菜かを想像していく。



2. 標本の展示

ようやくこの時期のラインナップ6種類とご対面。見たことのない形をしている。



3. 下処理方法と試食

下処理の説明が展示され、キッチンカウンターから、下処理済みの野菜を受けとって素材の味を試食できる。



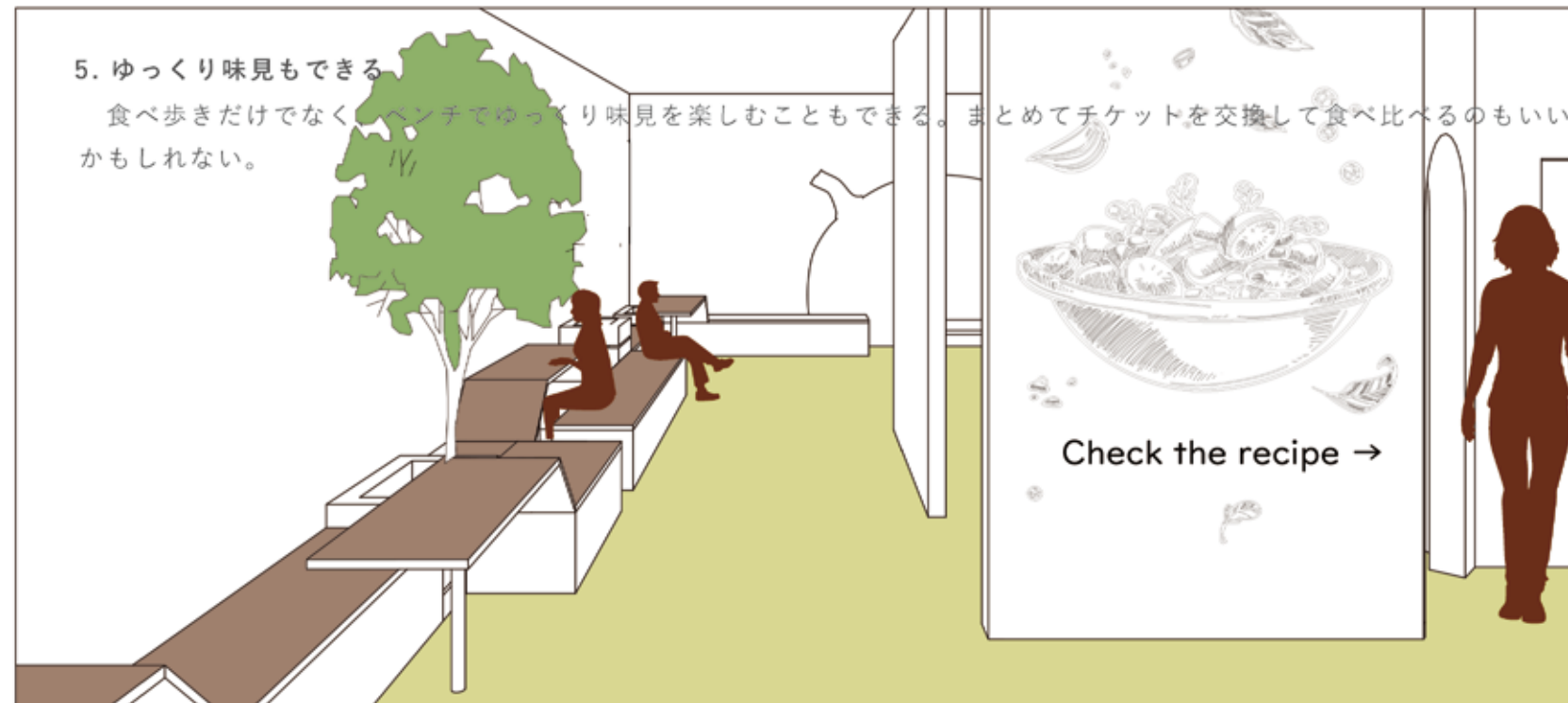
4. レシピの展示と食べ歩き

6種類のレシピが6つのブースにそれぞれ展示されている。レシピを見てそのまま、カウンターからチケットと引き換えに料理を受け取る。量は味を見る程度。ブース内のテーブルで立ち食いして食べ歩きもすることができる。



5. ゆっくり味見もできる

食べ歩きだけでなく、ベンチでゆっくり味見を楽しむこともできる。まとめてチケットを交換して食べ比べるのもいいかもしれない。



6. 口コミを投稿

食べ終えて1階に降りると口コミブースがある。どの料理が人気なのかを見ながら八百屋で買い物ができる



6. 家買って帰る

種から料理になるまでをたどってきた6つの野菜たちが八百屋に販売されている。八百屋には野菜ソムリエの店主がいて相談に乗ってくれる。基本は展示を見てからでないと購入できないが、一度訪れたことがある人はリピートして購入しに来ることができる。

